

連載

# 熱海市立図書館 100年のあゆみ

## 第2回 「逍遙先生記念 町立熱海図書館」の開館

問い合わせ：熱海市立図書館  
☎0557(86)6591

大正4（1915）年11月10日、大正天皇御大典記念事業として、坪内逍遙ほか有志の寄贈図書によって開設された「熱海町立図書館」は、田原町（現在の春日町）にあった熱海尋常高等小学校の正面玄関二階の貴賓室に設けられました。



▲熱海尋常高等小学校

逍遙は所蔵図書寄贈後も、新刊図書などの寄贈を続けるとともに、図書館の運営に関しての助言を続け、「図書目録の作成」や「寄贈者名の捺印」、「閲覧・貸出規則」、「番号・分類・蔵書印による管理」などの必要性を指導しており、現在における図書館運営の礎となっています。



▲逍遙直筆の覚書

やがて、大正9（1920）年には小学校から噺瀧館に移されました。熱海市史によりますと、「本図書館は田方郡熱海町噺瀧館内に附設す」と書かれ、図書館長は町長が務めるとされています。

熱海の歴史を代表する大湯間歌泉の傍らにあり、町営のレクリエーション・センターともなっていた噺瀧館に図書館を構えたことは、いかにも大正の熱海にふさわしいものであったとも述べられています。

すでに館外貸出の制度もあり、貸出期間は10日間、貸出冊数は洋装書一冊、和装書二冊以下で、町民甲種（15歳以上）は貳円、乙種（15歳以下）は壹円に区別された保証金制度がとられていたとされています。

昭和9（1935）年、噺瀧館が火災のために焼失した後、図書館は町役場楼上に移転しましたが、設備などが公共図書館として不備であるとし、昭和10年7月から昭和11年2月末まで休館し、この間に旧御用邸

（現在の熱海市役所用地）一階を改造し、同年3月「逍遙先生記念町立熱海図書館」として開館しました。

そして、昭和10年5月1日付けで「図書臺帳一号」が作成されています。登録されている冊数は2668冊、その内寄贈者に逍遙の名が記されている図書は約1200冊、またセン夫人の名前で明治・大正の教科書、シェイクスピア全集など、多数の図書が寄贈されています。

熱海町では、逍遙夫妻への感謝の気持ちの後世にも伝えるため、「逍遙先生記念町立熱海図書館」のスタンプを作り蔵書に捺印しています。



▲蔵書のスタンプ

また逍遙先生の寄贈図書にはもう一つ「寄贈文学博士坪内逍遙先生」のスタンプを見ることが出来ます。

市制が施行された昭和12年4月には「逍遙先生記念市立熱海図書館」と改正されましたが、同年日中戦争が勃発し、人手不足のため図書館は休館となり、改めて開館したのは昭和19年のことでした。

## 市長メッセージ 89

### 県立熱海高校

熱海市長 齊藤 栄



熱海市内には唯一の高校「県立熱海高校」があります。「ビジネス」や「福祉」といった特色ある教育プログラムがあるだけでなく、ヨット部、陸上部、報道部などの部活動の活躍は全国レベルです。しかし、近年志願者が減少しており、市としても本格的に熱海高校の魅力向上に力を入れています。

その一つは高校の通学路となる「さくらの名所散策路」の整備です。昨年から工事を再開し、平成28年度中の完成を目指しています。この通学路は「絶景」という言葉がぴったりの遊歩道です。長浜海岸を眼下に望み、地元の観光振興、防災にも寄与することが期待されます。

もう一つは静岡県、熱海市、産業界、地域の関係者からなる懇話会の設置です。「県立高校だから県の問題」ではありません。「熱海高校をより良くするには」を目標に関係者が皆で議論し、できることから実践しています。全国でも珍しい取り組みです。例えばこの3月に、熱海商工会議所が熱海高校の2年生を対象にした地元企業見学会を初めて開催しました。熱海高校に行けば、地元の企業に必ず就職できるというようになれば若年層の人口流出に歯止めがかけられます。

新年度から法律が変わって、市長がより深く教育に関われるようになり、「福祉」や「産業」分野と「教育」との連携が可能となります。教育委員会と市長部局がしっかりと連携して、教育の課題に取り組んでまいります。